

科目名	子ども家庭福祉		必修・選択	選択（保資必修）		授業形態	講義
担当者	藤原 法生	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期
授業の概要及び全体目標	子ども家庭福祉の理念や歴史の変遷を踏まえて、現代の状況・取り組み・課題等について学び、子ども家庭福祉の実現について理解する。また、福祉の実現のために保育士が果たすべき役割についても理解する。 子どもや家庭に関する身近な情報を活用し、学生間で情報交換をしながら具体的な学びができるような授業構成とする。						
一般目標（No.）及び到達目標（No.）	(1) 子ども家庭福祉の意義や歴史の変遷について理解する。 1) 子ども家庭福祉の理念や子どもの権利を理解している。 2) 子ども家庭福祉の歴史と現状を理解している。 (2) 子ども家庭福祉の領域や制度について理解する。 1) 子ども家庭福祉の制度と法体系を理解している。 2) 児童福祉施設の体系と概要を理解している。 3) 子ども家庭福祉の現状と課題について理解している。 4) 子ども家庭福祉の専門職について理解している。 (3) 地域における子ども家庭福祉の現状と展望について理解する。 1) 地域の環境と課題や地域住民を含む連携のあり方について理解している。						
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号
	1	社会福祉・子ども家庭福祉の理念と概念 福祉と保育					(1)-1)
	2	子ども家庭福祉の現状 少子社会、子どもと家庭を取り巻く環境					(1)-2) (2)-3)
	3	子どもの権利保障					(1)-1)
	4	子ども家庭福祉の歴史の変遷					(1)-2)
	5	子ども家庭福祉の制度と実施体系 法体系、国と地方の行政機関					(2)-1)
	6	児童福祉施設等 児童福祉施設の規定、体系、サービス提供の方法					(2)-1) 2)
	7	児童福祉施設の概要 保育所、幼保連携型認定こども園、乳児院					(2)-1) 2)
	8	児童福祉施設の概要 児童養護施設					(2)-1) 2)
	9	児童福祉施設の概要 母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター					(2)-1) 2)
	10	家庭への福祉サービス 子育て支援サービス、保育サービス					(2)-3)
	11	家庭への福祉サービス 社会的養護					(2)-3)
	12	家庭への福祉サービス 児童虐待、DV					(2)-3)
	13	家庭への福祉サービス 障害がある児童、貧困家庭					(2)-3)
	14	子ども家庭福祉の専門職					(2)-4)
15	地域における子ども家庭福祉の現状と展望 地域住民を含む社会資源と連携、諸外国の動向					(3)-1)	
成績評価の方法	定期試験（70％）、授業・ディスカッションへの参加態度（30％）						
テキスト	喜多一憲 監修、堀場純矢 編集：『児童家庭福祉』（みらい）						
参考文献・資料	社会福祉小六法 2019（ミネルヴァ書房）、保育者のための児童家庭福祉データブック 2019（中央法規出版）、その他必要に応じて提示						
事前・事後学習	事前にテキストの該当項目を一読し、授業後はノートとテキストを再読すること。 関連する新聞記事やニュースからも情報を得て学習を深めること。						